

森林吸収源インベントリ情報整備事業ブロック別地域講習会 西日本ブロック（中四国）

開催日：2013 年 8 月 1 日（木）

場所 岡山県岡山市北区牟佐（調査地点コード 330310）

講師 田中・藤井（森林総研本所）、酒井・森下（森林総研四国支所）

○概要

西日本ブロックを受託した熊本県森林組合連合会の担当者 1 名、中四国を担当する（株）アドプランツコーポレーションの担当者 3 名を対象に地域実技講習会を実施した。午前中は薄曇りの中、涼風が通り抜ける林内で快適に作業できたが、昼食後、土砂降りのため 30 分ほど現場で待機せざるをえないことになった。その後、天気は回復して、講習を予定時間内に無事におこなうことができた。

朝 8 時に近くのコンビニエンスストアで待ち合わせて、自動車 2 台で約 30 分かけて調査地点近くの高倉神社まで移動。しかし神社境内まで続く道は、舗装されており車の通行が可能ではあったが、急勾配と繁茂したコケのため、講習会参加者の車は何度かスリップして、車を押す必要があった。車を止めてからは参加者の先導で調査地点に向かった。送電線の鉄塔が目印だったが、最初は、誤った鉄塔から調査プロットに向かおうとした。しばらく様子を見たが、誤りに気づけそうになかったため講師から目的とする鉄塔が異なる（約 200m 隣）旨を説明。まずは調査地点にたどり着くことが極めて重要かつ基本であることから、複数の調査者によって、地図や GPS でルートを確認しながら調査地点を探すことが必要であると感じた。調査地点は、十数度の尾根緩斜面で、かつてはアカマツが優占していたが、現在はコナラ・アラカシなどの広葉樹に置き換わっている途中の林と思われた。下層にウルシがしばしば見られ、かぶれが心配された。

中心杭と東西南北の杭を確認する調査プロットの設定には約 30 分を要した。方法書では黄もしくは青と記載された中心杭は赤く、E および N の杭は落葉に隠れており、探し出すのに苦労した。その後、約 1 時間かけて、2 人が枯死木調査、2 人が断面作成をおこなった。枯死木調査については、慣れた手順で進み、分解度の判定も講師と大きな相違はなかった。根株がなかったため生立木調査は省略された。11 時頃から E 断面に全員集合して、堆積有機物および土壌調査方法の手順について確認した。土壌調査では円筒による土壌採取の講習に時間をかけた。特に、力任せに円筒を土壌に差さないこと、円筒に収まりきらなかった根やレキの処理、剪定鋏、出刃包丁、コテの有効な使用方法について講習をおこなった。参加者は、土壌用コテや出刃包丁の使いやすさを実感しており、実際の現場で自分たちの用意した道具と推奨される道具の使い比べができるのが現地講習会の利点だろう。

12 時 40 分頃から昼食をとり、雨が小降りになった約 1 時間後から作業を再開した。15 時半頃には全ての作業が完了し、講師が野帳をチェックした後、現場を後にした。車まで戻り、実技講習会中の主な指摘事項を再度確認して、16 時頃解散となった。



①調査地点に到着後、杭の確認とライン引き作業。目印となる杭が、落葉に埋もれていてなかなか見つからなかった。



②枯死木の分解度の判定基準について「数回一緒に判定することで、担当者間の違いを軽減できる」と講習を受ける参加者。



③粗彫りの後、断面を整形する際は、基本的に、堆積有機物層は剪定鋏で、鈎質土壌はコテを用いて整形することを説明。



④堆積有機物層について、層位分けの講習。写真は L 層を採取中の様子で、T の採取も同時に進めている。



⑤円筒による土壌採取。剪定鋏の向き、レキと根の処理に注意して、表面が凸凹にならないよう整形中。



⑥土砂降りに遭ったため、断面や採取する土壌がなるべく濡れないようブルーシートの下で作業。